

TRD (T 細胞受容体 δ 鎖) 遺伝子再構成 《PCR 法》		P000025			
		担当部署			
TRD		病理			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	サイボウズ→ファイル管理→54. 病理診断科→遺伝子解析依頼申請書→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		該当なし			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。			
検体採取の特別なタイミング		疾患診断時			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	組織 8mm 角	容器番号 27 滅菌スピッツ管	無	500	mg
2	未染スライ ドガラス	容器番号 30 遺伝子検査用標本ス ライド容器	無	5	枚
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		オーダーがない			
保管検体の保存期間		パラフィンブロック：半永久 *保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡			
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 病理診断科				
測定時間		8～11 日				
生物学的基準範囲		再構成を認めない				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		<p>T 細胞においても B 細胞と同様に分化過程において TCR 遺伝子の再構成が見られる。</p> <p>TCR 遺伝子は現在 $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ の 4 鎖が知られているが, TCRδ 鎖遺伝子も免疫グロブリン遺伝子と同様に V,D,J の各領域遺伝子から成り, D-J 連結ついで V-DJ 連結の順に再構成が生じる。</p> <p>γ 鎖遺伝子可変部は, V,J 領域遺伝子から成っていて, これらの遺伝子は T 細胞の分化, 特に胸腺内での分化の過程で遺伝子再構成を行い, γ 鎖と δ 鎖遺伝子は α 鎖と β 鎖遺伝子に先立ち再構成され, それぞれ複合体を形成し T 細胞レセプターとして発現される。TCRδ 鎖遺伝子は第 7 染色体長腕(7q32 または 7q35) に, TCRα 鎖遺伝子は第 14 染色体長腕(14q11.2) に, TCRγ 鎖遺伝子は第 7 染色体短腕(7q15) に, TCRδ 鎖遺伝子は第 14 染色体長腕(14q11.2) に座位し, TCR 遺伝子も免疫グロブリンと同様に TCRδ 鎖→TCRγ 鎖→TCRβ 鎖→TCRα 鎖のハイラキーが存在すると考えられるため, TCR 遺伝子の再構成パターンを調べることにより, T 細胞の分化過程の一部を知ることができる。またリンパ球表面マーカーなどの表現型による分類が困難な場合に有用な検査である。</p>				